

## 第1学年 社会科(歴史的分野)学習指導案

### 1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」 —モンゴルの襲来と日本— (東京書籍)

#### 2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容(3)「中世の日本」の学習として位置づける。この単元では、武家として初めての政権である鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを理解させることをねらいとしている。

源頼朝は、平氏の政治のやり方を教訓として、あくまでも武士として政治を行おうとした。あえて、長い間都のあった京都から離れた鎌倉という地で、朝廷とは距離を置いたやり方と御家人と主従の関係を結ぶ封建制度による支配を行おうとした。ここでは、頼朝による武家政権が東国に生まれ、そこから支配力を広げていった様子を、日本の歴史上初めての幕府と朝廷の関係に注目しながら理解していく。

また、この時代の仏教が、教養や修業、お金を必要とした平安仏教と違い、自分の信仰こそが重要であり、教えが簡単で、实际的で、妻帯も許された新しい鎌倉仏教が、当時の人々に抵抗なく受け入れられ、信者を増やしたことも注目し得る。この鎌倉仏教が起こった理由が、それ以前の平安仏教を支えていた貴族階級が衰退したことに起因することも見逃せないところである。

今回は元寇までを1つの単元に再構成し、二度にわたる元の襲来と日本の対応について理解させたいと考えている。この武家政権が始まった鎌倉時代が、他の時代と比べてどのような違いや特徴をもっているのかについても多面的・多角的に考察し、最後に、元寇についての討論や意思決定過程を取り入れた授業で、思考力・判断力・表現力を育てたいと考える。

- 本学級の生徒は、小学校時に教科に関わらず話し合い学習を多く経験しており、簡単な話し合いを行い、既知の学習内容に基づいた答えや自分なりの簡単な意見を友達に伝えることはできる。しかし、知識に裏付けられた意見や、資料などの根拠に基づいた意見を構成する力は十分とは言えない。
- 鎌倉時代は、日本の歴史上初めて強大な外敵の脅威に晒された元寇が起こった時代である。当時の幕府の執権である北条時宗の対応や九州を中心とした御家人がいかに外敵と戦い、退けたのかについて、暴風雨以外の要因を資料に基づいて考えさせたい。単元の最後に、学習問題「弘安の役後、また元の使者が日本にやってきた。あなたが幕府の執権ならどう対応すべきか」について、①使者の国書を受け入れて、使節の派遣を始める立場と②使者の国書を拒否し、戦争の準備を始める立場に分かれてメリットとデメリットをそれぞれの立場で考え、自分が執権ならどちらを選ぶかの意思決定を行う。資料などを参考に自分なりの意思決定を行わせ、最後に、「国書を拒否して、元軍を迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか」について討論を行う。また、これにより、この時代の大きな時代相もつかませたい。

#### 3 単元の目標

- (1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動き、また、モンゴルの襲来など東アジア世界とのつながりについての関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとさせる。
- (2) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れやモンゴルの襲来が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。

- (3) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったことを理解させ、その知識を身に付けさせる。

#### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<p>○武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に学習することができる。</p> <p>○モンゴルの襲来、など東アジア世界とのつながりに関心を高め、意欲的に追究している。</p>	<p>○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>○モンゴルの襲来が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>○武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。</p>

#### 5 単元計画（全7時間 本時6/7）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題をつかむ	○武士が次第に勢力を広げたことを、関東や瀬戸内などで起こった戦乱の様子から理解する。	○武士団では、天皇や貴族の子孫が武士の棟梁となって、家来と主従関係を結んだことを、資料から読み取らせる。	・平氏や源氏が武士の中で有力だった理由について、資料から適切な情報を読み取っている。 <b>【技】</b>	1
	<b>鎌倉を中心とした武家政権は、どのような仕組みによって武士を支配したのだろうか。《学習問題I》</b>			
	○武家政権の特色を、幕府や朝廷の関係から理解する。	○鎌倉の地形的要因に着目させて、幕府が置かれた理由を考えさせる。	・資料を基に、頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由や承久の乱による幕府や朝	1

調 べ る	○鎌倉時代の武士の生活の様子を様々な資料を通して理解する。	○武士の生活が、貴族とは違って武芸中心の質素な生活だったことを資料「武家の館の様子」から理解させる。	<p>廷への影響を説明できる。 【思】</p> <p>・武士が常に戦に備えていたことを、資料から読み取りまとめている。</p> <p>【技】</p>	1
	○鎌倉時代の建築物・彫刻・文学作品などを調べ、鎌倉文化の特色を理解する。 ○仏教の特色を理解し、広まった理由を考える。	○鎌倉時代の文化が、武士の台頭の影響を受けて力強く・写実的であることを理解する。また、鎌倉仏教が、誰でも実行しやすい方法で信仰できたので、現在でも広く信仰されていることを理解させる。	・この時代の文化が、力強く写実的なのは、武士が台頭してきたことに関係が深いことが分かっている。 【知】	1
考 え ・ ま と め る	○ユーラシア大陸での動き、及び二度にわたるモンゴルの襲来と日本の対応を考える。	○二度の元寇で、元軍を退けた理由が暴風雨以外にもあることを映像や資料から考えさせる。	・資料を基に、暴風雨以外で日本が元軍を退けた理由を2点以上読み取っている。 【技】	1
	○元寇後の日本と元の動きを考える。 ○メリット・デメリットを踏まえて、ミニ討論をし、社会的な問題に対する意思決定1を行う。 ○次時は、「国書を拒否して元軍を迎え討つ準備を始めたのは正しかったのか」について討論をすることを知る。	○「弘安の役後、また元の使節が日本にやって来た。あなたが幕府の執権ならどう対応すべきですか」について、ミニ討論をさせる。 ○①使者の国書を受け入れて、使節の派遣を行う立場と②使節の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする立場に分けてメリットとデメリットを考えさせ、最終的に自分が執権ならどちらを選ぶのかという意思決定を迫る。これにより、論題を導き出す。	・日元両軍が大きな被害を出した弘安の役後、再びやって来た元の使節に対して、幕府はどのような対応をすべきなのかについて、他の意見も参考に最終的な意思を決定し、適切に表現している。 【思】	1 本 時 (6/7)
	<p>論題 鎌倉幕府が、元の皇帝の国書を拒否して、元軍を迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか。 《学習問題Ⅱ》</p>			
	○執権(幕府)が実際行なった「国書を拒否して使者を処刑し、迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか」について討論を行う。 ○意思決定2を行う。	○自分が幕府の執権の立場で、既習内容や資料、友達の見解などを基に、幕府の対応が正しかったのかについて考えさせ、最終的な意思決定をさせる。	・討論に参加し、討論の内容を参考に自分の最終意見(意思決定2)を適切に表現している。 【思】	1

## 6 本時の目標

ミニ論題「弘安の役の後、再び、元の使者が国書を持って日本に来た。幕府(日本)はどのような対応をすべきか」について既習の知識や資料等を生かして考え、小集団での話し合いを経て最終的な自分の意見を適切に表現することができる。

## 7 展開(全7時間 本時6/7)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】									
1 学習のめあてを確認する。	○元寇の続きの学習をすることを確認させる。									
<b>めあて 二度にわたる元寇の後の、日本と元の動きを考えよう。</b>										
2 これまでの元寇(文永の役)の様子を、ビデオを見て確認する。 ・元軍は、てつはう(火器)を使っている。 ・元軍は集団戦法で戦っている。 ・日本の武者は、一騎打ちではなく、集団でも戦っている。 ・激しい戦いだった。	○スクリーンに映し出された映像などを見せ、戦いの特色を確認させる。 ○小学校での学習内容を想起させ、既習事項を確認し、元寇以降の日本と元の動きについて補完しながら説明する。その際、当時の史実に基づく「弘安の役の後、再び、元の使節が日本にやってきた」というエピソードを紹介し、ミニ論題を学習問題として提示することで本時の学習への興味を喚起させる。									
<b>ミニ論題 弘安の役の後、再び、元の使者が日本にやって来た。あなたが執権ならどう対応しますか。</b>										
3 ミニ論題について、2つの対応のメリット、デメリットを考える。 ・2つの対応を考える。 ①国書を受け入れて使節を元にする。 ②国書を拒否し、元を迎え撃つ準備をする。 ・個人、小集団で2つの対応のメリット、デメリットを考える。 ・学級全体で発表して意見を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>社会的な問題</b>  <b>(研究や論争の材料となる事件)</b>                      「元寇後に、再び元の使節が日本にやってきたこと」                 </div>	○立場は、鎌倉幕府の執権として考えさせる。2つの対応を考え、これらのメリット、デメリットを書かせ、その後、発表させて整理することで、思考の共有を図る。 ○予想されるメリット、デメリットの例 <table border="1" data-bbox="715 1220 1439 1662" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">執権(幕府)の対応</th> <th style="text-align: center;">メリット(よい点)</th> <th style="text-align: center;">デメリット(問題点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">①国書を受け入れて、使節を元に派遣する。(交流を始める)</td> <td style="vertical-align: top;">                             ・これ以上、御家人が苦しまないですむ。                              ・御家人が死なないですむ。                              ・幕府の財政も苦しくならない。                              ・九州の御家人の警備(異国警固番役)の負担が減る。                              ・交流が始まれば貿易によって、こちらにも利益が生まれる。                         </td> <td style="vertical-align: top;">                             ・これまで作ってきた石塁が無駄になる。                              ・大量の南宋の移住者たちを受け入れなければならなくなる恐れがある。                              ・あくまでも元が親で、日本が子という上下関係で交流が始まる。                         </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">②使者の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする。</td> <td style="vertical-align: top;">                             ・これまでの日本(幕府)の外交政策(外国には従わない)が揺るがないことを内外に示せる。                              ・南宋からの大量の移住者たちを受け入れなくてすむ。                              ・侵略をしてきた国と交流しないですむ。                              ・命をかけて戦った御家人が報われる。                         </td> <td style="vertical-align: top;">                             ・次は、元に敗れるかもしれない。                              ・負けたら、老岐や対馬のように多くの住民まで殺される。                              ・また石塁を延長して作り続けなくてはならない。                              ・九州の守りの兵役(異国警固番役)を続けなくてはならないので御家人の負担が増える。                         </td> </tr> </tbody> </table>	執権(幕府)の対応	メリット(よい点)	デメリット(問題点)	①国書を受け入れて、使節を元に派遣する。(交流を始める)	・これ以上、御家人が苦しまないですむ。 ・御家人が死なないですむ。 ・幕府の財政も苦しくならない。 ・九州の御家人の警備(異国警固番役)の負担が減る。 ・交流が始まれば貿易によって、こちらにも利益が生まれる。	・これまで作ってきた石塁が無駄になる。 ・大量の南宋の移住者たちを受け入れなければならなくなる恐れがある。 ・あくまでも元が親で、日本が子という上下関係で交流が始まる。	②使者の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする。	・これまでの日本(幕府)の外交政策(外国には従わない)が揺るがないことを内外に示せる。 ・南宋からの大量の移住者たちを受け入れなくてすむ。 ・侵略をしてきた国と交流しないですむ。 ・命をかけて戦った御家人が報われる。	・次は、元に敗れるかもしれない。 ・負けたら、老岐や対馬のように多くの住民まで殺される。 ・また石塁を延長して作り続けなくてはならない。 ・九州の守りの兵役(異国警固番役)を続けなくてはならないので御家人の負担が増える。
執権(幕府)の対応	メリット(よい点)	デメリット(問題点)								
①国書を受け入れて、使節を元に派遣する。(交流を始める)	・これ以上、御家人が苦しまないですむ。 ・御家人が死なないですむ。 ・幕府の財政も苦しくならない。 ・九州の御家人の警備(異国警固番役)の負担が減る。 ・交流が始まれば貿易によって、こちらにも利益が生まれる。	・これまで作ってきた石塁が無駄になる。 ・大量の南宋の移住者たちを受け入れなければならなくなる恐れがある。 ・あくまでも元が親で、日本が子という上下関係で交流が始まる。								
②使者の国書を拒否して、元軍を迎え討つ準備をする。	・これまでの日本(幕府)の外交政策(外国には従わない)が揺るがないことを内外に示せる。 ・南宋からの大量の移住者たちを受け入れなくてすむ。 ・侵略をしてきた国と交流しないですむ。 ・命をかけて戦った御家人が報われる。	・次は、元に敗れるかもしれない。 ・負けたら、老岐や対馬のように多くの住民まで殺される。 ・また石塁を延長して作り続けなくてはならない。 ・九州の守りの兵役(異国警固番役)を続けなくてはならないので御家人の負担が増える。								
4 ワークシートのメリット、デメリットの表や資料から、どう対応するかを意思決定をする。(意思決定1)	○個人で考えさせ、資料等を参考に自分なりの表現で理由を書かせる。									
5 小集団(班)での話し合いやこれまでの資料などから最終的な意思決定を行う。 ・小集団でミニ論題についての考えを話し合う。 ・最終的な自分の意思決定をワークシ	○小集団の友達の意見を参考にして、最終的な自分の意思決定を迫る。 ○友達の意見を簡単にワークシートにメモをさせる。これを参考に最終的な自分の意思決定をさせる。【評価】 ○数名の生徒に考えた内容を発表させることで、2つの									

<p>トに記述する。</p> <p>6 学級全体で意見の数を調べ、実際の史実を聞き、次時の論題をつくる。</p>	<p>対応それぞれを支持する考えを共有させる。</p> <p>○出た意見の人数を調べ、支持する対応が分かれたことを確認し、実際の史実「国書を拒否して使者を全員処刑し、戦争の準備が継続されたこと」を説明する。これにより、「それでよかったのか」という反応を引き</p>
<p><b>論題 鎌倉幕府が、元の皇帝の国書を拒否して、元軍を迎え撃つ準備をしたのは正しかったのか。</b> 《学習問題Ⅱ》</p>	
<p>7 次時の学習を確認する。</p>	<p>○次時は導き出した論題について討論することを知らせる。</p>

### 8 本時の評価

<p>本時の評価規準</p>	<p>ミニ論題「弘安の役の後、再び、元の使者が国書を持って日本に来た。幕府(日本)はどのような対応をすべきか」について既習の知識や資料等を生かして考え、小集団での話し合いを経て最終的な自分の意見を適切に表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)</p>		
<p>判定基準 (判断のめやす)</p>	<p>「十分満足できる」状況(A) 元の使者への対応について、既習の知識や資料などの根拠を基に意思決定し、記述している。</p>	<p>「おおむね満足できる」状況(B) 元の使者への対応について、自分なりの記述ができる。</p>	<p>「努力を要する」状況(C) (B)に達していない記述</p>
<p>→(B), (C)と判断した生徒への支援策</p>		<p>→意思決定は、根拠となる資料を用いて記述することが大切であることを伝える。</p>	<p>→元の国書への対応について、さらにヒントを与え、記述を促す。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ワークシートの記述・発表内容</p>		